

動物園からこんにちは

札幌市立伏見中学校

第2学年理科資料

9月に入り涼しい日が続くようになりました。北海道の夏って本当に短いですね。ちょっと練習が長引くだけでも外は薄暗くなります。少ない昼間の時間を有効に使ってほしいですね。さて、今回は動物園センターから最も近いタスマニア館からです。



歩く



尾で支え、左右の足を同時に出す

大昔、オーストラリア・南極・南アメリカ・アフリカ・インドが一つの Gondwana 大陸だったといわれています。そのオーストラリアはほかの大陸と早くに分離したので生物も独自の進化をしたものが多く見られます。その一つがカンガルーです。彼らには有袋類とよばれ、赤ちゃんをおなかの袋にいれて歩くことが特徴です。なぜなら、妊娠時に胎盤があまり発達せず未熟な状態で生まれるので子供のかたちが完成するまで母親の乳首の周囲の毛皮がポケット状になったもので育てます。したがってみには袋はありません。「散歩

訓練」の時には、間近で見られますので是非観察してみてください。運が良ければ袋の中に手を入れてみることもできますよ。



歩くときには、右の図のように尾でからだを支えて前足で前に進み、後ろ足を出します。走るときには尾でバランスをとりながら後ろ足でジャンプします。さて、その手足の特徴をとらえてみました。まず、前足ですが指が5本あります。変わっているのは後ろ足です。写真では指が3本のように見えます。実は中央の太く大きな指は第四指(薬指)、横の小さい方が第五指(小指)、横の大きい方は第二・三指



(人さし指と中指)がくっついていてあります。親指はありません。



地面にかかるとまできちんと着くのでちょっと変わった足跡になります。動物の足跡を比べてみるのもおもしろい自由研究になりそうですね。ところで、おなかから赤ちゃんが顔を出しました。もう立派なカンガルーです。結構大きくなるまで袋に入れるのですね。(ハイイロカンガルー 有袋目 カンガルー科)



足跡を探すというのは野外で動物を発見する手がかりの基本です。北海道では冬になると雪の上にも足跡があり、そこから何の動物のものか考えるのも楽しいですね。わかったことは、記録して学校にレポートしてくださいね。では、また。

カンガルー、大好きです。

オーストラリアに行くと自然公園にカンガルーが放し飼いになっています。静かにしていると向こうから近づいてきます。よく見ると愛嬌のあるかわいい顔をしていますよ。